

## 第26期〔自 平成18年4月 1日〕 事業報告 〔至 平成19年3月31日〕

### 1. 会社の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及び成果等

平成18年度は、沿線人口の減少等、依然として厳しい経営環境のなか、原油高騰による相次ぐ燃料軽油の値上げ等で更に厳しい年となりましたが、沿線地域の生活路線、三陸海岸を縦断する観光路線として、安全で安定した輸送を目指して取り組んでまいりました。

また、経営改善計画につきましても3年目となり、目標達成に向けて社員全員の総力を結集して計画を推進してまいりました。また、今後の更なる効果的な取組みについての検討を行っているところであります。

企画列車として「産直列車」、「八戸線直通春さんりく号」、「さんりくトレイン北山崎号」、「よく出来ました号」、「リアス・シーライナー」、「こたつ列車」、「つばきまつり号」、「南リアスさくら号」、イベント列車として「花見カキ列車」、「結婚式列車」、「ゴルフコンペ列車」、「大船渡市成人式列車」、「十五夜列車」、「クリスマス列車」、「初日の出号」、「初詣号」等の列車を運転し増収に努めました。

また列車内で「頑張る地方応援懇談会 in 岩手」が開催されました。

「産直列車」では、社員による「漁師ガイド」や「虎舞」を登場させ、今年で4回目の運行となる「こたつ列車」も車内に「なもみ」が登場したり宮古駅でのカニ汁のサービスを実施する等、サービスを充実させ誘客に努めました。

健康促進と利用促進を兼ねて「唐丹桜ウォーキング」、「つつじの今出山登山」、「第20回三鉄山根ウォーキング」を行ったほか、JR東日本と岩手開発鉄道の三社合同企画による「3鉄まつり」等を開催し増収に努めました。

「三鉄パスポート」は、10月から3月までの実施期間中に小学生を中心

に 1,482 人、786 千円の利用がありました。

観光客誘致を目的としたエージェントセールスは 5 月、9 月、2 月に東京、名古屋、大阪、福岡、PR キャラバンを東京、仙台、盛岡、八戸において実施し「さんてつくん」が大活躍しました。

県外エージェント主催による団体客は、エージェント毎に多少の増減はあるものの相変わらず順調な伸びを示し、セールス活動の効果もあり 11,687 人増で前年比 127.7% となりました。

経営改善計画に基づく経費削減策として、車両の一部検査や清掃及び構内作業の直轄化を実施し、年間約 15,000 千円の経費削減を行いました。

岩手県三陸鉄道強化促進協議会と共に展開している「マイレール三鉄・沿線地域 30 万人運動」の一環として販売した「マイレール 30 万人運動三陸鉄道乗車券」は、沿線市町村、沿岸 4 振興局、三鉄友の会等と共に PR 活動を推進した結果、1,478 セット、2,956 千円の売上げがありました。

平成 18 年度の鉄道事業は、県外エージェント主催団体が好調だったことにより、乗車人員は 1,041 千人（前年比 98.5%）とやや減少したものの、旅客運輸収入は 382,928 千円（前年比 100.4%）と昨年を 1,400 千円上回る収入を上げることができました。

鉄道事業、関連事業全体では、経営改善計画に基づいた社員の削減と業務の効率化を進めましたが、施設や車両の老朽化による交換部品の増加と燃料軽油の価格高騰があり、営業費は 3,983 千円増の 555,519 千円で、これに固定資産税を加えた経常支出は前年に比べて 3,307 千円の増で 576,558 千円（前年比 100.6%）となりました。

営業収益は、鉄道事業が前年比 100.9% と好調でしたが、関連事業が前年比 99.9% となったため全体では 435,305 千円（前年比 100.7%）、これに営業外収益を加えた経常収益は 457,125 千円（前年比 100.9%）となり経常損

失は前年度より 1,109 千円減の 119,432 千円となりました。

また、経営改善計画に対しましては、3,600 千円ほど改善しております。

なお、前年度経常損失額 120,541 千円に相当する額について、岩手県から運営費補助金として交付いただいております。その他の特別損益等を加味すると、10 月の低気圧被害の復旧工事費 4,295 千円を特別損失に計上しておりますので当期純損失は 3,471 千円となりました。

平成 19 年度におきましても、三陸沿岸地域の公共交通機関としての使命を果たすため、安全安定輸送に努めサービスの改善を推進するとともに岩手県をはじめ沿線市町村のご支援をいただきながら、経営の安定化に向けて努力してまいります。